

### ③青年期（概ね18～30歳）

#### ◆現状と課題

青年期は、親の保護から自立し、社会の一員としての役割と責任を果たすことが求められる時期ですが、子どもから大人への過渡期であり、人生の中で最も生活が変化する時期とも言えます。また、結婚や妊娠、育児を通して家族の絆や家庭の大切さを学ぶ時期でもあります。

青年の持つ創造的な価値形成への意欲、自由な発想は尊重されなければなりません。一面において、自己中心的な面、感覚的、享乐的な意識傾向がひとつの問題として上げられ、内向的で孤立化する傾向も指摘されています。このことは、集団活動や社会参加活動への関心の低下や社会性の欠如、社会連帯意識の希薄化につながっていると考えられます。最近では、夢や目標を見いだせず、働く意欲に欠ける若者の増加が社会問題になっています。

青年が、地域や社会と積極的に関わり、夢と希望を持ちながら、より良い生活や人生設計を実現させることができるよう、地域と連携した交流や活動の場、青年に経験や伝統を引き継ぐために経験を共有する機会などが必要です。また、きめ細かな情報提供や相談体制の充実が望まれます。

重点目標	施策の方向性
1. 自己の役割と責任を認識できる学習・活動の場の充実を図る。	働くことの意義を体験的に実感する機会の提供に努める。(ニト対策)
2. 青年団体の活動やグループの自主的活動、仲間づくりの支援の強化を図る。	各種リーダー研修会への派遣、リーダーの発掘・育成に努める。
	勤労青少年グループ・サークル活動、青年団体活動の支援に努める。
3. 社会参加意識の向上を図るため、地域と連携した活動の場及び機会の構築、情報提供の充実を図る。	職業能力向上のための相談、情報提供に努める。
	ボランティア活動や地域活動等の情報を提供し、参加促進に努める。